



勝利の人生になるための条件(6) 【救いのかぶとをしっかりとかぶりましょう。】

今日の聖書本文:エペソ人への手紙 6章 10-17節 /暗唱:ヨハネの福音書 5章 24節

愛する聖徒のみなさん!先週一週間もイエスキリスト信じる信仰の大盾を持ってみなさんの思い、心、体が守られましたか。梅雨が続いている中、先週は九州の熊本らやあちこちで今までの観測最高を記録するほど豪雨(ごうう)のため18人が死亡し、8人が不明となりました。様々な思わぬ被害や災いが続いている中で新しい今週も主の平安と見守りがありますように切にお祈り申し上げます。

今日は神様の民として霊的勝利者になるために私たちが身につけるべきことは何なのかその六つ目の時間です。今日も神様の御言葉を通して各自与えられる神様の御声を聞くことができますように心からお祈り申し上げます。

< 1. かぶとの大切さ >

今日の聖書の本文エペソ 6:17 をみると“救いのかぶとと御霊の与える剣である神のことばを受け取りなさい”と書かれています。愛するみなさん、かぶとは戦争の時、胸当てと一緒に軍人が自分を保護するために使われていて頭を守る武具です。頭は昔も、今も体中一番大切などころに違いはありません。

体の他の部分は矢に打たれたり、剣でケガをしたとしても急所(きゅうしょ)をはずれば生きる可能性はありますが、頭がやられると命に直接かかわるところであって、命が何とか守られても攻撃されるともう普通には戻れないほど重くきずになるところではないでしょうか。!

そういうわけですから当時ローマの人たちは戦いにおいて頭を保護し勝利するために古代(こだい)社会で一番りっぱなかぶとを製作していました。他国では布や動物の骨でつくられたかぶとを使っていた時、ローマの軍はあごのひもと顔面(がんめん)をかくし、くびの後ろと横にまで完全に保護するほど他国より発展したかぶとをつけたのです。

時代が変わって、今日武具も先端をはしり、軍人たちの服装も変わって来ています。しかしながら、当時のかぶとと今の軍人たちの鉄かぶとはそんなに大きい違いはないようです。これは戦いにおいて昔からも人体(じんたい)の保護するために一番大切な頭を守ろうとしていることは変わらないからです。今日も戦争場に出る時かぶとをしっかりとかぶらず出る兵士は誰一人いるわけがありません。飛んで来ている弾丸(だんがん)の戦争場で鉄のかぶとをかぶっていないなら一番大切な頭をさらすことと同じで結局死を自ら招くことになりがちです。

今日使徒パウロは人体(じんたい)において一番大切な頭には救いのかぶとをかぶりなさいと言っています。神の国と神の義を成し遂げるために霊的戦いをしている神の子供たちは再び主が来られるその日までかならず救いのかぶとをかぶっていなければなりません。旧約のイザヤ書 59章17節(主は義をよろいのように着、救いのかぶとを頭にかぶり、復習の衣を身にまとい、ねたみを外套として身をおおわれた。)にも神の民が頭にかぶるべきかぶとは救いであることを強調しています。第一テサロニケ5章8節にも“しかし私たちは昼の者なので、信仰と愛を胸当てとして着け、救いの望みをかぶととしてかぶって、つつしみぶかくしていきましょう。”と書かれています。

救いのかぶとは何ですか。救いの確信、つまり救い主イエスキリストを受け入れ信じた事により、自分は救われたことを確信する信仰なのです。ですからこの救いのかぶとは信仰の胸当てとは若干(じゃっかん)違います。これはイエスキリストが私の唯一救い主であり、神様はそのイエスキリストのみを通して私を救ってくださる唯一の道である! 神様であるイエスキリストの十字架の恵みによって私は救われたという信仰と確信をかたくにぎて保つことです。

< 2. 救いが一番大切です。 >

神様の民たちへのサタンが一番するどい攻撃とは何か知っていますか。それは私たちが神様から頂いている救いの信仰と確信を失わせるようにすることです。イエスキリストを通して得られた救いの確信、神様の御国への確信、揺るがな

い救いへの信仰の確信などを疑うようにと試みます。サタンは罪深いこの世の中で私たちが失敗したり、罪に倒れたりする我々によく訴えます。“お前のような罪人は神様の愛を受ける資格もないし、当然救われる資格も、天国にも入れなく、絶対救われることもできない。”というサタンの攻撃に負けてつまずいてしまうことがサタンの一番激しい策略なのです。そして長い間待ちながらやっとイエスキリストを受け入れて、洗礼を受け、救われたのにもかかわらず、落胆し、悲しみながら神様を離れようとするのです。イエスキリストによる救いを疑わせ、救いの信仰から離れさせることが我々に向うサタンの最終的な目標であることを忘れないでください。

ですから愛する信仰の家族のみなさん!私たちがイエスキリストを信じ、教会に通っている一番大切な理由は聖書の御言葉の約束通りに神の御子イエスキリストを信じることにより、救いを受けることではないでしょうか。

私たちの信仰生活において一番大切なのは救いを得ることであり、その救いの信仰の確信に堅く立ち、守ることであることをいつも心にとめておきましょう。

信仰の生活の中で奉仕や交わりや他にいろいろ仕えることも大切ですが、もし今晚自分のたましいを神様が呼び出してもイエスキリストを信じる信仰によってぜったい天国に入れるという救いの確信をもっていますか。

ピリピ人への手紙 2 章 12 節で使徒パウロが“そういうわけですから、愛する人たち、いつも従順であったように、私がいるときでなく、私のいないいまはなおさら、恐れおののいて自分の救いを達成してください。”と語れているように私たちは神様の御前で救いが全(まっとう)されるまでつまり天国にたどり着くその日までこの世の中で心を慎(つつし)んでいつも自分自身を救いの信仰を守るようにとすすめられています。

私たちの信仰において一番大切なのは救いの信仰と救いの確信です。愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん!この地においてはたとえ、すべてをうしない、いくら苦しくても、私たちに望みがあり喜ぶことができる理由はどんな時でしょうか。それは私たちが救われたという信仰の確信と人生の旅人である我々に戻れる天国への望みを強く抱きつかんでいる時ではないでしょうか。

例え)日本にも似たように用いられている人々がいると思いますが、女性であるながらも赤ちゃんのごろから医療ミスで小児麻痺(しょうにまひ)になり、一生涯言葉もうまくしゃべれず、普通の人間としての生活は不可能であって人間的には不幸に見えたある姉妹がいました。彼女のお名前はソンジョンヒという姉妹です。何度も思秋期の時、みずぼらしい自分自身をかがみで見ながら何度も自殺しようとしたことが、失敗しました。そんな彼女がイエス様を知り、信じてから得られた救いの感激と喜びがあまりにも大きかったためその心を信仰の詩の形として書き始めました。今は韓国の中で有名なクリスチャン詩人となり、多くのさまよい、苦しんでいる多くの人々にイエスキリストの愛が染みられている聖書的な詩を通して希望と生ける意味を与えるのに大いに用いられています。その体表的な詩をご紹介します。

タイトル:“私”:<私持っている多くの物ないけれど /私ほかの人も持っているたくさんの知識はないけれど/私ほかの人のような健康はないけれど、私ほかの人にはないものがある。私、他の人が見れなかったことを見、他の人が聞けなかった御声を聞き、他の人が受けたことのない愛を受け、ほかの人が知らない事実を悟られた。等(ひと)しい神様はほかの人が持っているもの私にはないけれど、等しい神様はほかの人もってないすばらしいものを私に与えてくださったのだ。>

ルカの福音書 10: 20 節でもイエス様は弟子たちに悪霊たちに勝ったことによる喜ぶのではなく、弟子たちの名前が天に記されていること!つまり自分が信仰によって救われたことにもっと喜ぶようにと言われました。かつては救われるなんの資格もなかった罪人であった私たちが神様の恵みによって救われたというこの事実こそ信じがたい神の恵みであり、神の奇跡であり、一番大きな感謝ではないでしょうか。

< 3. どうやって自分も救いのかぶとをかぶることができるのか。 >

するとこれほど大切な救いをいま自分自身は受け取っているのかどうやってわかることができるでしょうか。

簡単です。次の御言葉をいま自分の口で認め、心から信じる者は救われると約束されています。次の聖書の箇所を自分を点検して見て下さい。

*ローマ人への手紙 10 章 9-10 節(なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。:10 人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。)

*ローマ人への手紙 10 章 13 節(「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる。」のです。)

*ヨハネの福音書 3 章 16 節です。(神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。)

この御言葉を通して今日も私たちが覚えるべき大切な一つがあります。私たちが救われるためにそして救いのかぶとをかぶって勝利するために神様が願われているのは良い行いではなく、まず救いの信仰をかたく保つことです。ただ、信仰によって私たちは救われることができるのです。(ローマ人への手紙 1 章 17 節:福音のうちに神の義が啓示されていて、その義は、信仰にはじまり、信仰に進ませるからです。義人は信仰によって生きる。と書いてあるとおりです。)

ですからイエスキリストの十字架の死による救いを今日自分が信じ受け入れる時のみ、だれでも、どんな人でも救われ神の子供になるのです。

ex) 宗教改革者であったマルチンルーテル先生は 1517 年、宗教改革を起こす前には当時ほかの神父たちと同じように人間の罪の問題の解決は苦行(くぎょう)を行なうことだと信じていました。

それで、彼は 1510 年 11 月から 6 ヶ月間巡礼(じゅんれい)の旅に出かけました。当時この巡礼の旅の際(さい)必ず通らなければならないコースがありました。それはローマの「聖階段教会(Scala Sancta)」内にある「ピラトの階段」という 28 の階段でした。巡礼者たちはキリストの苦難を覚え祈りながら、ひざで一個一個上がって行きました。階段に散らかされているガラスの破片(はへん)は苦しみをさらにし、巡礼者たちは血をながしながらひざであがったり、おりたりしながら神様にたいする自分の愛と功労を表しました。それによって自分が救われると信じていたのです。

ルータも回りと同じくローマの巡礼旅行の際(さい)ここに来てひざで階段を一個一個這(は)い登(のぼ)りました。ひざはきずついて血だらけになりましたが、このようにやることにより自分の罪はゆるされ、救われると信じ込んでいたのです。しかし、がまんしてひざのまま這(は)い登(のぼ)り続(つづ)きました。しかしそれにもかかわらず苦しみはさらにましくわれられ、なおさら心の平安もまったくありませんでした。するとふっとルーテル先生の頭にローマ人への手紙 1:17 節の御言葉が思い浮かびました。“義人は信仰によって生きる。”

ルーテル先生はその御言葉によって心が熱くなりもうそのままいられませんでした。その場で立ち上がって歩いて階段を下(お)りて来まして、神の救いは人の行い(功労、苦行、良い行いなど)からではなく、イエスキリストを信じる信仰によって救われると言う聖書の内容通りに主張し始めたのが 1517 年ドイツから全ヨーロッパに広がった宗教改革運動でした。

人間の苦しみと行いによって神様の前で自由にされる人生、罪から自由にされる人生は一人もないということです。“義人は信仰によって生きる”ここで信仰というのは何でしたか。私は死ぬべき罪人ですが、イエスキリストが私の罪の身代わりとなって十字架で死んでくださったことを信じて、私のあらゆる罪はイエスキリストを信じるだけできよめられ、救われるということを受け入れることが信仰なのです。

神様に救われるということは神様の御言葉によれば決して人にむずかしいことではありません。どんな人でも救われます。たくさん教育を受けた人も、そうではない人も、金持ちでも、まずしい人も、どんなにひどい罪をおかしたとしても今日救われますが、だれもが救われません。私たちにイエスキリストの十字架への信仰がなければなりません。神様にとって大事なものは御子イエスキリストによる信仰があるかどうかだけだからです。

“私は罪人です。しかし、イエス様は私のために死なれました。そのイエスキリストを私の救い主として信じ受け入れます。私のすべての罪をお赦し下さい。罪による永遠の死から救い出してください。そして、これからは私ひとりぼちではなくあなたとともに、あなたを信じる信仰によって生きる者としてください。イエスキリストのお名前によってお祈りします。アーメン！”と告白して見ませんか。告白さえあれば、人々は例外なく、神様の恵みにあずけられることができます。

聖書は神の救いがただだっというのです。エペソ人への手紙 2 章 8 節で神の恵みのゆえに信仰によって救われたと教えて下さっています。ここで恵みという単語はカリスという単語で‘代価のない贈り物’、ただという意味です。ですから神様は救いの恵みをただでくださったのです。しかし、救いはもっともっとやすく、取るに足りないからただで与えられたわけでは決してありません。私たちはただでいただくように見えますが、神様の方ではそのために一番高く払われました。私たちが救うため神様であるイエスキリストを十字架で死なされたのです。これは神の愛のゆえに値(あたい)なしだったため人間の基準では値段をつけることができません。その尊い救いの恵みを神様は私たちにただで与えられたのです。ただこの事実を信じる者であればだれでもです！

愛するみなさん!だれでも信仰によって主の御名を呼び求める者は救われるという御言葉の約束を信じてください。(ローマ 10:13)かりに今から10分後に死ぬ人がいたとしても今この時間自分が罪人であることを告白し、イエスキリストを自分の救い主として信じ、受け入れればその人にも揺るがない神の救いが訪れることを信じてください。

<4. 救いのかぶとをしっかりとかぶった人に与えられる祝福>

この救いのかぶとをかぶった人つまり救いの信仰の確信をもっている人はどうなりますか。当然救われます。しかしいざれ死んで天国にいけるだけではなく、イエスを受け入れた瞬間から私たちの人生も変わります。わたしたちに新しい夢と希望が与えられます(使徒の働き 2:17)。どんな悪霊のこころみと攻撃にも大胆に対抗し打ち勝つことのできるほどの力と自信がきます(ルカの福音書 10:19)。イエスを信じて救いの確信がある人は不安はありません。神様の子供とされたので死に対する恐れも、将来への心配と不安(ヨハネ 1:12)からも自由にされることができます。神様による人生の希望が与えられます(ローマ 5:4-8)。神様と人々を愛し、和解できる力と勇気が与えられます(ローマ 5:1,10)。そして今まで知らなかった喜びと楽しさを味わえることができます。どんな患乱がやっても神様の救いのためにわたしたちは感謝し、喜ぶことができます(ローマ 5:11)。愛することができます(ローマ 5:5)。

<まとめ>

愛する信仰の家族のみなさん!このすばらしい救いの感激をもう一度回復されますように切に願います。

私たちに救いへの確信の信仰があれば人生はいつも喜びに満ちて輝(かがや)き、顔には明るいほほえみで、その口には感謝の賛美が満ち溢れると信じます。そしてその耳は神様の御言葉を聞きたがり、主を愛する心で満たされ主に惜しみなく仕えることができると信じます。このような救いのかぶとをかぶっているなら、あえて悪魔は私たちを倒すことも、揺るぐこともできず、かりに試みて来るとしてもいつも分別し、打ち勝って勝利して神様に栄光を帰すことができると信じます。神様に対する救いのこの確信が私たちをいかに強くし、揺るがない信仰で生きることができるようになってくださるのかわかりません。

救いのかぶとをしっかりとかぶりましょう！救いのかぶとつまり神様に対する救いの信仰の確信をしっかりとつかんで歩みましょう。もしこの救いの確信がない方がいれば、今日この御言葉を通してもう一度イエスを信じる信仰が与えられますように節にお祈り申し上げます。神様に対する救いの確信は神様の御言葉を聞くことから始まります。イエスキリストをみあげ信じて、いまみなさんにかかえているすべての問題や悩(なや)みにとらわれることなく恐れと不安は消え去れ、神様の願われる救いの人生を大胆に送ることができると信じます。

もう一度神様の与えられている救いを受け取って、強められ、大いに用いられる神様の民として共に続けて歩めるように主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！